
winter,melody

ガジル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

w i n t e r , m e l o d y

【Nコード】

N 4 0 9 0 A

【作者名】

ガジル

【あらすじ】

主人公の水原聖也は幼馴染の和歌の事を少々気になっている。そこから始まる二人の物語り

幼馴染

僕には一人、幼馴染の女の子がいる

女子とはまともに話さない僕にとつて唯一の女友達と言える
保育園も幼稚園も小学校も、そして中学校も同じだ。

幼稚園児の頃・・・

『自分たちが大きくなったら結婚しよう』

当時の僕達は、そう固く誓った。

しかし、現在中学3年生

僕達二人とも当時の約束を忘れたワケではない。

けども、いろんな出会いがあれば、いろんな事を覚える

となると、いつまでも『結婚しよう』などと口にする事は愚か、考
えたりするなんて事もない。

僕達はあの頃の約束を永遠に封印しようとしているのだろう・・・

僕の名は水原聖也

みずはら せいや

中学3年生で部活動引退後は、叔父さんの店で手伝いをしている（
月4万でやらせてもらっている）

両親は父親が2年前に亡くなって、母親と妹と3人暮らし。

『このままだと、生活が苦しいから』

と、叔父さんは氣を利かせてくれて僕をやとってくれた

これで何とか普通の生活は保てている。

そして、いつもの朝

「行ってきたーす」

と言って学校に向かった。

僕の通う学校は徒歩10分くらいの所にあり、特徴をあげるならば、

『緑がいっぱい』ってトコだ。

僕がダルそうに歩いていると

「よーっす！聖也、今日も『ダルさ100倍！アンポンタンか？』」

友人の宮下正隆みやした まさたかだった。

「あ、おはよ・・・」

と他愛無い会話が続いた
気付けば校門の前にいた。

何人もの生徒の前で生徒会が挨拶運動に励んでいる

その時、僕はある人物に目を奪われた

彼女だった

昔の可愛らしい面影を残しながらも彼女は随分成長したなあ・・・
と思うのである。

とりあえず僕は彼女に

「おはよ」

と挨拶を交わした。

彼女は

「おはよう、聖也」

笑顔で答えてくれた。

彼女と話すのは久しぶりだった

それゆえ、会話が途切れてしまう

彼女は、学年でも1、2位を争うほどモテている。

名は上城和歌うえしろ わか

部活動は吹奏楽部で今なお、部活動に励んでいる

和歌の担当する楽器はフルート

その美しいメロディを奏でる和歌を見れば大抵の男子は一目ぼれする
もちろん僕の隣にいる男も

「かわいいなー和歌は、いっちょ狙ってみるか」

正隆の無謀な発言に俺は聞いてないフリをした。

幼馴染（後書き）

初めて小説を書きます

アドバイス、感想ヨロシクお願いします

過去の思い出

和歌とは同じクラス、正隆とは違うクラスなので僕は正隆と別れた僕が教室に入ると早速、和歌は大勢の女の子に囲まれた。

「ねー、和歌ー、あんたまゝだ彼氏つくらないの？」

と一人の女子が言う。

「だって好きな人とかいないし・・・」

と、和歌は答える。

すると二人目の女子が

「あんた男を引きつけるためにフルートやってるんじゃないの？」

「そんな、せこい理由でやるワケないでしょ！」

ただ小さい頃からやっていただけ」

その通り、彼女は幼い頃から母親にフルートを習っていた記憶は鮮明に残っている。

（9年前）

「見て聖也、私新しい曲吹けるようになったよ」

まだ、あどけない無邪気な笑顔で僕に駆け寄ってくる和歌。

「それでは、聞いて下さーい」

そう言って和歌は演奏を始める

まだ小さいって言うのに和歌の演奏は僕の心を癒してくれるような優しいメロディを奏でていた

やがて演奏が終わり、

「はい終わり！どうだった？」

やや不安そうな目で僕を見る和歌

僕の答えはもちろん

「よかったよ、すごく」

彼女は喜んだ

その幸せそうな顔は僕にも幸せをもたらした。

やがて雪が降ってきた

「いけない、早くお家に帰らなきゃ」

「送ってくよ」

急いで僕達は帰った

やがて和歌の家に着く。

「ありがとう聖也、風邪引かないように帰るんだよ」

そう言って僕に手を振った

僕も手を振り帰路を歩いた。

「待つて！」

和歌が僕を呼び止めた

そして……………

僕の頬に…………息と…………柔らかい感触

「じゃあね！」

和歌は帰っていった

僕も頬をさすりながら帰った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4090a/>

winter,melody

2010年12月10日14時37分発行